

元気 パワー

GP 農法だより



無農薬自然農法

* 元気パワー農法 *

発行 農民連埼葛支部 NO10

事務局長 高橋利男 TEL 090-6933-1755

〒344-0011 埼玉県春日部市藤塚 402-18

土のパートナー 佐藤 隆 TEL 090-4672-1285

農民連埼葛支部発行の「GP 農法だより」では、1年以上にわたり、「GP 農法」の紹介をいろいろな角度から行ってきました。この程 GP 農法推進プロジェクトから、元気パワー農法についてまとめた小冊子が出されました。そこで、今回の GP 農法だよりでは、そのレジメと前文を掲載します。

《小冊子掲載内容》

* 元気パワー農法とは

- 1、GP 農法で作った作物はどんな作物でしょうか？
- 2、作物のエネルギーについて
- 3、GP 農法は、どんなことをして微生物を活性化するのでしょうか？
- 4、なぜ、霊芝が微生物の活性化に効果があるのでしょうか？
- 5、GP 農法の効果・検証等

【微生物の有無について】【農薬の分解について】

【「気」及び地磁気について】

- 6、元気パワー水への発展
- 7、草のエキスのエネルギーの抽出に発展
- 8、GP 農法に適するモミガラ堆肥の製造に発展
- 9、GP 農法の役割

【資料】農薬残留テスト・草のエキスの抽出方法・豆腐の絞りかすのモミガラぼかし・堆肥の作り方

《元気パワー農法とは》

【特色】

- 1、農薬を使わない。
- 2、化学肥料を使わない。
- 3、その土地、その土地の土壤微生物のパワーを上げて増殖し、その微生物の力を活用する。

農薬は害虫を寄せ付けなかったり、殺傷する効果がありますが、それと同時に「土壤微生物」をも殺傷してしまいます。しかし土の中には、何億何兆という数の微生物がおり、その微生物が生きる自然サイクルで、土は本来「健康な土」を維持します。GP 農法は、その健康な土を作る「土壤微生物」に着目しました。

基本原理は、《土壤微生物を活性化して、増殖し、土のパワーを上げる》です。ですから、稲作にも、野菜にも、果樹、花木等、すべてに通用します。また、気候を選ばないので、寒冷地などの厳しい状況ほど、この農法の効果を実感できると思います。健康な土で育った野菜を食することで、私達人間も元気になると考えます。

【効果の例】

- 1、野菜・果物などは日持ちが長く鮮度が落ちない・エグミが極端に少ない。抗酸化作用が高い。生育過程では、病気が出ない・虫などが付きにくい・収穫量が多くなる・天候に左右されにくい。
- 2、大学の研究などに使われている測定機を使い、GP 農法で作った野菜のエネルギーを検証したところ、普通の野菜の数倍～数十倍もの高いエネルギーが検出された。
- 3、普通の家の庭の樹木に、今までにないほどの多くの花が咲いた。

【GP 農法の仕様・内容】

1、《霊芝もしくはセラミック》

土壤に特別の処理加工した霊芝もしくはセラミックを埋設します。これにより、土壤中の微生物のパワーを上げて超活性化し、増殖します。

2、《草のエキス》

GP 農法の特別な方法で、15種類以上の生の状態の草を使い、草のエネルギーの水溶液を作ります。これを土壤に散布します。通常、草はやっかいな物とされていますが、GP 農法では、草の持つ強い生命力を一週間で発酵させ、酵素として取り出します。草の種類は多い方が更にパワーが高まる為、20～30種類使用の方が理想的であり、どんな草でも適応します。

3、《モミガラ堆肥》

GP 農法の特別な方法で、モミガラ・米糠・豆腐の絞りカスを混ぜ合わせてエネルギーの高い堆肥を作ります。この堆肥を施肥します。豆腐の絞りカスは、多くが産業廃棄物として処理されていますが、GP 農法では、これを利用して1カ月で堆肥にします。

【効果が出るまでの期間】

GP農法は、この農法をやり始めてから1カ月～3カ月で効果が出てきます。ただし、農薬や化学肥料を併用してしまうと、それは微生物が活性化するのに反する力になってしまうので、効果がありません。

【ご注意】

効果が出て多収になった時は、それだけ土壌中の養分（微生物の作り出した酵素等）を多く吸収したことです。次作物には基準より30～50%多く施して下さい。またナス・トマト・ピーマン等には、追肥を多めにやらないと肥料切れを起こすことになります。

「草のエキスを作る」

原料・材料等（100L分）

- 草（生育中のもの） 5～8kg（後記）
- 米ぬか 3～4kg
- 水 80～90L
- 他にセラミック、元気水（Aタイプ）

作業手順等については、GP農法推進プロジェクトの資料（送料込みで200円）をご購読して下さい。農民連埼玉支部に切手でご注文下さい。草エキスの活用は非常に巾広く、“GP農法”で成功するか失敗するかのカギにもなるものです。

使用する草はいずれも、強烈な“雑草”です。その他の雑草も一緒に刈り取り、原料とします。

ドクダミを中心に、10種類位と、その他の雑草と合わせて30種以上が理想的です。10月下旬頃までだと生育中の雑草もありますが、その後は西南地方でないと、雑草を集めるのが厳しいと思います。

草のエキスは仕込んでから7日間位で完成しますが、失敗すると、強烈な悪臭が漂います。手抜きをしないことが成功の要となります



【草エキスを作るための草名の例】

田イヌビエ（3～4種）、アメリカセンダングサ、チョウジタテ、ササエタデ、ヨモギ、アカ・シロザ、イヌタデ、セイタカアワダチソウ、ドクダミ（3～5種）、ギンギシ、ヨシ（5～7種）、ガマ（3～4種）、クズ、ヤブガラシ、アメリカアサガオ、ヤブマメ等。

「GP 農法実践地の視察会」

とき：9月29・30日のいずれか1日

★丹波黒豆畑、着莢数が1株に数百もついた姿
（春日部市内牧 生産者・根元さん）

とき：1月～3月

★水稻の後へ二毛作目にほうれん草作付
（春日部市小平 生産者・吉田さん）

★ちぢみほうれん草、コカブ、ネギ等
（春日部市小平 生産者・高橋・西上さん）

★イチゴ
（春日部市下吉妻 生産者・林さん）

★モミガラぼかし・オカラぼかし
（30～40日経過後の完成品と、仕込み中のもの）

★水稻でGP農法を実践した圃場の根張り状況

★発酵した米、腐敗した米のテスト状況

（春日部市上柳 生産者・山口さんのハウス等）

丹波黒豆畑の全景
（8月10日頃）



乳酸菌モミガラぼかし
仕込み風景



オカラモミガラぼかし
完成品

